



有限会社川原代自動車電機工業所

評価の
ポイント

小規模企業におけるキャリア支援を
通じた従業員の意欲向上

わが社における「グッドキャリア」とは

社員一人一人がのびのびと働ける職場の環境づくり、毎日の会話（コミュニケーション）づくりに注視し若い人財を雇用し育成しながら、指導側も共に学び、社内の活性化を図り、従業員満足度向上に努める事だと思います。

それにより、お客様に満足していただき、さらに社員の『やりがい』を深め、社員全員が地域に貢献し、自己啓発のできる会社づくり、人づくりだと思います。

経営者より
メッセージ

当社の経営理念に基づき、地域経済の発展に貢献し、地元茨城（竜ヶ崎）での受賞はたいへん誇らしく、また励みになります。今後もこの受賞を糧に、人づくり、さらに町づくりに力を注ぐ企業でありたいと思います。

代表取締役
湯沢 文一



企業概要

事業概要	主たる業務は自動車総合整備、自動車部品（電装品、ディーゼル車補機製品等）の販売・取付・修理等。取引の半数は、大手自動車ディーラー様からの外注修理であり、乗用車から運送業者、建設業者が所有するトラックやバスなど、ガソリン車～大型ディーゼル車迄を対象としている。
業種	自動車整備業
所在地	茨城県竜ヶ崎市
従業員数	12人（男性8人/女性4人、うち非正規雇用1人）
平均年齢	41歳
創業年	1967年

キャリア 形成支援 担当者紹介

氏名	<small>ゆざわ ふみかず</small> 湯沢 文一
部署名	代表取締役
担当年数	15年
キャリア形成支援の取組を担当して良かったこと	社員が劇的に成長してくれたことです。
キャリア形成支援の取組で苦労したこと	個々の意識改革や、少人数の企業の為、時間の捻出などです。

具体的な取組

効果表導入・半期面談実施から着実に始めるキャリア支援

職能と職種別技能の両面をバランス良くワンシートで纏めた分かり易い等級別の考課表(評価基準)を用意し、これをベースにした各種管理表により、全従業員が自己評価や個人目標の申告、目標のPDCA型管理を日々行い、従業員自身が主体的にキャリア形成について考えております。また半期ごとに社長(私)と面談を行う事で、評価と目標設定を客観化し、会社の目標と調整を図っております。

また、新人研修、マナー研修、リーダーシップ研修など、株式会社エフアンドエム(コンサルティングサービス)の研修サービスを活用し、従業員に経営能力育成や社会人育成を受講させており、この機会に専門的な視点から、キャリアの問題も相談できるようにしています。社長(私)自身もこのコンサルティングサービスを活用し、評価者訓練研修、リーダーシップ研修を通じ、ビジネススクールを卒業しました。

取組の効果

従業員の意識・やりがい向上と業績への反映

サービス技術の向上、顧客対応力等の向上、資格取得にも積極的に取り組んでおり、技術、職能ともにさらに向上しております。また、自らの課題を的確に把握している為、どのように解決すべきかも自分自身で考えられています。半期ごとの自己の管理サイクルの中で課題を掲げ、弱点を克服し、一人ひとりが成長していることを実感しています。その結果、従業員が意識を高め、やりがいを持ち、これが業績にも反映(月平均売上 H26年/1698万円、H27年/1789万円、H28年/1981万円)しております。

★ 今後の課題と展望

当社のキャリア支援の評価と課題創出のため、従業員アンケートを実施致しました。その結果、業績の向上をやりがいと感じているとともに、これに伴い業務の負担が高まっており、休暇が取りにくくなるなど従業員の不満も多岐にわたりました。このため、休暇の取り易い職場の労働環境の整備が急務だと考えています。

また、今後、若者が夢を持てる会社づくりを推進する必要があるため、新卒者を積極的に採用し、仕事をしながら能力育成ができる職場環境を整え、将来を見据えて安心して働け、生きる事が出来る受け皿となり、全従業員の仕事だけでなく、個々の生活、人生に配慮した制度を充実させます。現在女性従業員の1人もキャリアアップ支援を受ける準備をしております。6ヵ月間の教育を重ね、成長して頂き正社員化する予定でおります。

皆が帰属意識とモチベーションを高め、自己啓発を促し人生計画を創出できる人材づくり・会社づくりを目指しております。

★ 社員の声

未経験の職種に携わることになり、はじめは不安な事ばかりでした。しかし、キャリア形成カリキュラムにより、仕事の基礎となる部分を時間をかけて教育してもらい、仕事をおぼえるスピードや理解力を身につけることができました。

(部品課/男性/40代)

キャリア形成支援の取組をはじめたきっかけ

社長(私)自身の過去の体験や経験の思いがあり、年功序列の社内制度の見直しや、個々の評価を公平にしたかったからです。